

関係者ヒアリングについて

～関係者ヒアリングについて～

概要 「第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定にあたり、第7期計画の重点施策からテーマを設定し、関係団体の意見や実態等を把握するためヒアリングを実施しました。

テーマ	ヒアリング団体名	団体概要
基本目標Ⅰ. いつまでも地域とつながり、いきいきと活躍できる環境づくり		
1 高齢者の活躍の場	岡山市老人クラブ連合会	高齢者の生きがいや健康づくりを推進することにより、明るい長寿社会の実現と保健福祉の向上に資することを目的とした地域を基盤とする自主的な組織
2 地域づくり活動の現状や課題等	旭竜学区支え合い推進協議会	支え合い助け合いの精神を地域に根付かせ、地域の支え合いの輪をもっと広げたいとの思いから発足した住民主体の団体（地域支え合い推進会議（第2層協議体））
基本目標Ⅱ. 状態を改善し、健康寿命を延伸する多様なサービスの展開		
3 健康寿命を延伸する健康づくりの推進	健康市民おかやま21推進会議	市の健康増進計画にあたる、健康市民おかやま21（第2次）を推進する市民、職域、四師会、行政等で構成された組織
4 介護予防の推進	岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会	各市町村の介護予防総合事業等の参加・活用を促進する取り組みを行う、リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）各職能団体の運営する合同団体
基本目標Ⅲ. 医療を含めた施設・在宅サービスを安心して利用できる仕組みづくり		
5 在宅医療・介護連携の推進	一般社団法人 岡山県訪問看護ステーション連絡協議会	訪問看護の在り方についての調査及び研究や、各訪問看護ステーション間における相互の連絡、協力、調整及び情報交換などを行う団体
6 認知症施策の現状	認知症のひと家族の会岡山県支部	認知症のひとと家族、専門職等が力を合わせて「認知症になっても安心して暮らせる社会」を目指している全国組織の岡山県支部

テーマ1 高齢者の活躍の場について

ヒアリング団体：岡山市老人クラブ連合会

○現在の活動において課題となっていること

- ・会員の高齢化。
- ・新入会員の減少。
- ・役員の後継者不足。
- ・市の中心部とそれ以外ではそれぞれ事情が異なるので、講演会等の参加者が偏る。

○今後の活動において重要だと感じていること

- ・「してもらう」側ではなく、健康な高齢者はできることを仲間・地域へ「する」側に立つ。
- ・老人クラブが地域の高齢者の交流の場となる。
- ・得意なことや人生経験で得た知識や知恵を次世代等に教える。
- ・地域の高齢者を孤立させない。

○行政への意見・要望等

- ・人生経験がある高齢者の知恵や経験を周り的高齢者や次世代に教えたりする場がもっとあれば生きがいや交流が生まれる。
- ・類似する取組もあるため他団体等とそれぞれの自主性を保ちながら連携し、行事・活動をするべき。

ヒアリングから見える課題

- ・高齢者が得た知恵や人生経験を次世代等に継承していく場を創出できるように支援する必要があるのではないか。
- ・地域高齢者の交流の場となる老人クラブの活動を継続して支援する必要があるのではないか。

2

テーマ2 地域づくり活動の現状や課題等について

ヒアリング団体：旭竜学区支え合い推進協議会

○現在の活動において課題となっていること

- ・多忙なメンバーが多く、協議の場が少ないこと。
- ・他人のために動く・役に立つ事の大切さが教育されていないこと。
- ・行事等に参加する人はいるが、リーダーとして主体的に活動をする人が少ない。
- ・高齢者は持病のある方が多いため支える側が少なく、若い人は仕事中心で地域への奉仕時間がもてないこと。

○今後の活動において重要だと感じていること

- ・地域のニーズを少しでも多く引き出すこと。
- ・固有のニーズを的確に把握することが地域づくりをする上で大事である。
- ・ニーズへの対策は、法的活動だけでは達成できず、家庭を中心とする地域社会の中にあっては、ボランティア活動が核となると思っている。
- ・昨年、旭竜学区の高齢者を対象としたニーズ調査を実施し、結果をまとめた。今後はニーズに対してどのようなことを実現していくかが重要。旭竜学区支え合い推進協議会で話し合っていく予定。
- ・若者が当番制で地域の役員をすることにより、活動の背景（大切さや苦労等）を知ることが重要。
- ・現在の福祉活動等（サロン等）へ担い手として参加している人の中からリーダーを探し、育てていきたい。

○行政への意見・要望等

- ・福祉等について困りごとがあった場合、どこへ相談していいかわからないことが多いため相談機関等の更なる周知が必要。

ヒアリングから見える課題

- ・地域の支え合い活動について、協議する場の更なる設置や充実させるための支援を検討するべきではないか。
- ・地域づくりに携わる行政部署・関係機関が連携している「地域づくり支援ネットワーク」について周知が必要ではないか。
- ・生活・介護支援サポーター養成講座の充実による、講座受講者の地域活動への参加促進について検討するべきではないか。
- ・生活支援ニーズ等に対する必要な地域支え合い活動の充実・創出支援を検討するべきではないか。

3

テーマ3 健康寿命を延伸する健康づくりの推進について

ヒアリング団体：健康市民おかやま21推進会議

○現在の活動において課題となっていること

- ・取り組むべき健康増進の方向、具体が見えていないこと。

○今後の活動において重要だと感じていること

- ・地域住民に向け、各組織の活動の「見える化」を図ること。
- ・健康増進の普及啓発は、印刷物の文字ではなく、体験型で進めること。
- ・新規の取り組みが進んでいない組織へは、市が活動の支援をすること。

○行政への意見・要望等

- ・地域で特色ある取り組みも重要だが、市として市全域で進める具体の取り組みを示すべき。
- ・地域団体の取り組みを市が適切に評価し、優れた取り組みは各団体に拡げること。
- ・教育、介護、保健で連携して市民の健康づくりに取り組むこと。
- ・市の重点的な施策は公民館など身近な場所で取り組めるように。

ヒアリングから見える課題

- ・今後の取り組みの具体の提示や組織間の情報共有、活動内容の周知など、推進組織の状況に応じた支援等が必要ではないか。
- ・市の健康増進施策の推進の方向性等についての情報発信を強化すべきではないか。

4

テーマ4 介護予防の推進について

ヒアリング団体：岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会

○現在の活動において課題となっていること

- ・市町村の取組（ケア会議、研修会等）を支援しているが、派遣する会員（リハビリ専門職）が有給休暇を取って対応しているため、派遣人数、回数に限界がある。
- ・市町村の取組に対しては、会員の勤務先である病院等の理解が得られにくい場合もある。
- ・「リハビリ専門職」というくりで依頼を受けることが多く、各リハビリ専門職の専門分野を十分に活用できていない。

○今後の活動において重要だと感じていること

- ・行政側に各リハビリ専門職の専門分野が十分に理解されていないため、専門分野の理解を促進する取組が求められる。
- ・行政側の要望とリハビリ専門職が提供できる取組とのマッチングが重要。

○行政への意見・要望等

- ・医療情報が少ないためにリハビリ専門職としての適切なアドバイスが難しい事業もある。事業の中では必要な情報が受け取れる仕組みが欲しい。
- ・行政が行う地域のリハビリテーション活動等の依頼では、「リハビリ専門職」としてひとくりに依頼を受けることがあるが、リハビリ専門職の中でもそれぞれ専門分野が異なる。事業内容と専門分野がマッチするような事業依頼をお願いしたい。

ヒアリングから見える課題

- ・リハビリ専門職の各事業への参加に対する勤務先の理解の促進や各専門職ごとの専門分野に適合した事業の設定など、リハビリ専門職が各事業に参加しやすい環境を考慮し、連携を図る必要があるのではないかな。
- ・高齢者の増加に伴い、リハビリ専門職の活用に対するニーズが高まることが予想される中で、本団体とも連携も図りながら、介護予防の取組を進める必要があるのではないかな。

5

テーマ5 在宅医療・介護連携の推進について

ヒアリング団体：一般社団法人 岡山県訪問看護ステーション連絡協議会

○現在の活動において課題となっていること

- ・人材の確保・定着。
- ・人材育成：看護職・療法士の質の均てん化、指導者の育成。
- ・災害時の地域内連携の推進。

○今後の活動において重要だと感じていること

- ・人材の確保・定着。特に若い人材の確保・定着、大規模ステーション（5人以上）を増やす。
- ・人材育成（OJTによる指導を担当する職員の育成）。
- ・WEB会議を活用した受講しやすい研修環境の整備、業務の効率化。

○行政への意見・要望等

- ・看護職による訪問看護ステーションの職場体験事業の推進（体験者の確保が課題）。
- ・WEB会議を活用した入退院支援のための連携推進。
- ・訪問看護の普及・啓発のための市民対象の訪問看護フォーラムの開催。
- ・関係機関との情報交換等連携強化。

ヒアリングから見える課題

- ・人材育成をより効果的・効率的に進めていく必要があるのではないか。
- ・ICTを活用した多職種協働による入退院支援等を推進していく必要があるのではないか。
- ・様々な医療関係専門職を講師とした市民公開講座を拡充するなど、より効果的な普及啓発を推進していく必要があるのではないか。
- ・それぞれの地域における将来的な人口及び年齢構成や、医療・介護資源の今後の状況予測などの具体的なデータを把握し、地域の特性に応じた入院から看取りまでの在宅医療連携体制について、引き続き進めていく必要があるのではないか。

6

テーマ6 認知症施策の現状について

ヒアリング団体：認知症の人と家族の会岡山県支部

○現在の活動において課題となっていること

- ・「家族の会」の認知度が低い。
- ・広く県内の市町村と家族の会の認知症施策に係る協力体制が不十分。
- ・企業間で認知症（特に若年性認知症）に対する理解に格差がある。

○今後の活動において重要だと感じていること

- ・他の認知症関連団体を含む諸団体との協力体制の構築。
- ・諸活動の実施において、認知症の人及び家族の思いを反映させる。
- ・地域住民への「居場所」に関する周知。

○行政への意見・要望等

- ・認知症サポーターの更なる活動の場が少ない。積極的に活動の場を作る必要がある。
- ・診断時に今後必要な情報が提供されていない。また、混乱している本人と家族が落ち着いたときに、必要な情報や相談窓口につながる仕組みが不十分である。
- ・若年性認知症の方の診断からサービス利用までの支援が不足している。
- ・当事者同士が話をする場や居場所づくりは、型にはめられるような制限のある形態は避け、本人やその家族が自然に会話できるような取組にする必要がある。

ヒアリングから見える課題

- ・企業向けに認知症の理解を深める取組をする必要があるのではないか。
- ・認知症サポーターが認知症の人やその家族と一緒にできる活動は何かという共生の視点で活動の場を作る必要があるのではないか。
- ・認知症の人やその家族の意見を聞き、今後の認知症施策の取組に活かしていく必要があるのではないか。
- ・各窓口で、適切な相談機関やサービス等につなげるための対応や連携体制に課題がある。

7